

平成26年度第2回岩手県動物愛護推進協議会議事録

○ 開催日時及び場所

平成27年2月18日（水）13時30分～15時20分 岩手県庁12階特別会議室

○ 出席者の氏名

1 委員

多田洋悦委員、新屋映子委員、下机都美子委員、瀬川康信委員、戸澤雅美委員、平野梢委員、村上肅委員、石澤巳江子委員、佐藤圭委員、阿部敏秋委員（代理出席）岩田直司委員（代理出席）小野寺玲委員（代理出席）、照井英輝委員

2 事務局

白岩利恵子県民くらしの安全課総括課長、小島純食の安全安心課長、三浦節夫主任主査、松館宏樹主査、遠藤裕美主任

○ 議事の概要

1 開会

2 あいさつ、委員等紹介

白岩県民くらしの安全課総括課長が挨拶を述べた。

委員の紹介を事務局から行った。

3 報告

次の3件について、事務局から報告した。

(1) 平成26年度上半期岩手県動物愛護推進ボランティアの活動報告について

【質疑等なし】

(2) 第2次岩手県動物愛護推進計画の進捗状況について

【主な質疑、意見等】

○下机委員：犬の数字はずいぶん進んでいると感じる。猫については、行政の引取り拒否ができる規定ができたことによって、行政の窓口で指導された人が団体に相談に来ることがある。特に感じるのは猫の多頭飼育が増えていること。当団体においては、北上、花巻地区において、飼養頭数が40頭規模3件の多頭飼育の問題に関与している。盛岡市内にも飼養頭数が20頭～30頭規模の多頭飼育が問題になっている場所がある。法律が改正になって行政が拒否できるとなった時の受け皿が不足していると感じる。拒否された人がそのまま飼い続けることによって、多頭飼育につながっていくのではないか。保健所の担当は、拒否するだけでなく、実態をみて判断してほしい。

所有者不明の617頭について、飼い主がいないのに誰が連れてくるのか。

猫の譲渡率、返還率が低く10%に満たない。犬はかなり譲渡率、返還率ともに上昇している。猫は保健所で犬と同じように引取っているのに、譲渡のホームページに載

ってこない。担当者は猫に対する偏見あるのではないか。猫の情報をもっとホームページに載せてほしい。

○遠藤主任：猫の引取りについては、頭数が減らない状況である。行政だけではできないことが多いので、団体の力を借りて、また、住民に一番近い市町村と共に連携していきたいと思う、ホームページへの掲載については、県では新しい飼い主に譲渡する場合は、譲渡に適しているか県の基準により適正を評価した上で譲渡を実施している。猫は譲渡に適しているかどうか評価するのは難しい。一定のマニュアルをもって線引きしている。ボランティアさんにも協力いただきたい。

○下机委員：猫の譲渡選定は簡単だと思う。机の上での判断だけでなく対応してほしい。猫の収容頭数が多いこと、ホームページへの掲載の手間等マンパワー不足によりやらないのではないか。一人の担当者に判断を委ねることではなく門戸を開いて情報を出してほしい。猫の譲渡は難しいわけではなく、情報が広がらないのが問題なのではないか。

○小島課長：情報提供の方法については、より良い方向性でやっていかなければいけないと思っている。

○三浦主任主査：猫の引取りについて、総数のうち7割が子猫であると説明したところ。離乳前の状況であれば、24時間面倒を見る体制ができるかどうか問題である。成猫については、ホームページへの掲載や市町村への連絡を実施している。子猫を引取る場合は、母猫を不妊手術することを条件に引取りをすることとし、子猫が大きくなる3か月くらい面倒を見てもらい、その間に譲渡先を見つけるよう努力している。県の施設に入ってくる子猫が多く、担当者の努力だけでは追いついていないのが現状である。

○遠藤主任：所有者不明の猫の引取りについて、拾得者などから、動物愛護法第35条第3項において県は引取らなければならないとされている。しかしながら、その引取りに悪意や故意があってはならないと考えている。繰り返し引取りを求めることのないよう拾得した状況を十分に聞き取るなどして引取りを行っている。飼い主がいると思われる猫については、犬に準じて公示することとしている。

(3) 同行避難訓練の実施について

【主な質疑、意見等】

○下机委員：今回の同行避難訓練は、動物を実際に連れて行かなかった。他県は動物を連れていく訓練などを実施している。せめて沿岸地域などで計画を立ててやっていただきたい。そのことによって、助かる命があると思う。災害から何を学んだか。実際に被害にあった私たちとしては、もっと前に進んでいきたい。当然動物を連れていくべきものだ。災害時、動物もパニックになると思う。小規模でも地域で実施する訓練の中でやってほしい。1か所だけでなくそれぞれの地域でやってほしい。

○小島課長：防災訓練について、今年度は、総合防災訓練の計画に入っていなかったところを当方から働きかけた経緯がある。主催者側からの条件で動物の同行部分については対応できなかったところ。来年度は、動物の同行を盛り込んでやる方向で調整している。

4 議事

多田会長が議事を進行した。

○多田会長：2月のお忙しい中御出席頂き感謝申し上げます。犬猫の愛護、適正管理、動物福祉の向上に関わる業務を日夜問わず対応頂き感謝申し上げます。昨日2回ほど地震があった。4年前も3.11の前に3.8の地震があった。8日の地震では、警報とはこんなものかといった印象を持ってしまいがちである。大きな地震に連動するものになる場合がある。普段から震災に対応し備えが大切であると感じたところである。

(1) 動物愛護推進ボランティアの活動の活性化について

事務局から説明を実施した。活動状況の計上方法の見直しについて、開業獣医師が診療行為に付随して実施している行為も活動として平成26年度上半期から計上することとし、順調に活動日数が増加したことを報告した。また、他団体の活動が見えにくい状況との指摘を受け、「動物愛護推進員ボランティアだより」の発行について各委員から意見を求めた。

【主な質疑、意見等】

○多田会長：今年度上期の活動実績について、開業獣医師は日常の診療の中で、適正飼養の推進は常に実施しているところ。繁殖の管理、譲渡のあっせんについても各診療所の中で工夫を凝らしてやっている実態が、数値として表れたと思っている。

○瀬川委員：当団体は地域猫を主として実施しており、フェスティバル等を開催する団体ではないが、参加できるのではないか。活動をみんなに伝達することが大事だと思う。地域猫に対して、地元自治体によって対応が違う。県の指導が一括していないので

はないか。釜石市において、地域猫対策を町内会長からの依頼により取り組み、保健所と一緒に協力する形で20頭ほど避妊した。市役所とも協議をしたが、一つの町が声をあげてもできない。市全体町内8ブロックの町内会長の会議で騒いでくれれば、助成というのものもあるかなと言われた。

○**下机委員**：地域猫の発展について、盛岡市が長年努力されている。市の広報でも地域猫について、ページを割いて広報している。他市では対応不可とならないように、盛岡市の実績をみんなで共有していただきたい。先頭に立っていくのは保健所の職員ではないか。殺処分数の減少につながっていくと思う。地域によっては、必ず一人二人はやりたい人がいる。個人の努力によって活動している。そういう人が表に出るようにしてほしい。

○**平野委員**：飼う前の人、飼いたいと思っている人への指導はどれくらい活動としてあるのか。保護される動物を減らすにしても、飼う前の段階である程度の教育を受けていれば、飼わないという選択もあると思う。命を家庭に迎え入れるということであれば、人間の赤ちゃんと同じ。人間の赤ちゃんで行っている「すくすく学級」のようなものが、動物にあってもいいのではないか。飼う前の段階からそういった活動が必要ではないかと感じた。

○**遠藤主任**：活動の数値としては、対象人数は集計しているが、飼養の有無については集計していない。しかしながら、幼少時からの教育として、学校訪問をして命の大切さなどを普及啓発している。また、参考資料2として配布している「食の安全安心担当業務研究発表会演題」等に示すとおり、飼う前の人を対象とした譲渡前講習会なども実施している。県単独ではなく、ボランティアの皆さんとも協力していきたい。

○**多田会長**：人と動物が快適に共生できる社会を目指している。昨年度策定した第2次岩手県動物愛護管理推進計画の対象は、飼っている人だけでなく、飼っていない人も同じように動物に優しい目を向けて共生していこうという趣旨である。

○**白岩課長**：盛岡市とその他の市町村は、置かれている立場が少し違う。地域猫について、盛岡市は、中核市として保健所があることによって主体的にやっている。他の市町村は、住民課、生活課等別の課で持って御苦労されている。盛岡市においては、市町村が集まる会議等で、地域猫に関するアドバイス、情報提供などやっていただきたい。保健所も当然に関わりながら、一緒になってやっていく。岩手県の底上げになると思う。

○**女鹿委員**：当団体は、犬とともに施設の訪問活動を実施している団体である。今年度

はこの協議会に初めて参加した。動物愛護推進ボランティアだよりについて、ボランティアの感想や写真が掲載されており、非常にわかりやすい。文書だけではどのような活動なのかをイメージするのは難しい。ボランティアは何をやったらいいか悩んでおり、他の団体が何をやっているか非常に興味がある。

(2) 平成27年度動物愛護推進ボランティア研修会について

事務局よりこれまでの研修会の実施状況について説明をした。

○多田会長：この会議上で決定する訳ではなく、開催方法、講師、要望、ご意見等をいただきたい。

○伊勢委員：24年度に開催した研修会での高木先生の講演は、具体的でヒントになった。昨今、ゼロミッションなどの感情的に訴えるものが強すぎる気がする。自分たちが実際に何ができるのか、見えるものがないと思う。

○下机委員：高齢者が飼っている動物をどうしたらいいかという問題が、社会問題となっている。飼い主が入院、施設に入る等により、動物と離ればなれになってしまうことが本当に多い。「小さいから、かわいいから」だけで飼ってしまっているので、矯正が必要なことがある。

また、精神的な病気を抱えた方に動物を飼うことを勧める医師がいる。「ストレスで飼えない、治ったからいらぬ。」等動物を道具として捉えている場合もあり、これからの課題である。そういったことをお話しいただける先生がいいと思う。

○平野委員：専門学校でのイベント等において、飼い主にアンケート調査を実施し、現状、ニーズを把握している。飼う前の者が家族でイベントに参加することが多く、適正に飼う意識が高くなっている。当校は開校して10年経つ。イベントに参加する飼い主マナーも高まっており、給水道具、糞取り道具など持参する人が増えている。現状とニーズがどうなっているかという点、岩手県内にしつけを相談できるところが少ない。訓練所は何か所かあるが、施設数が少ない。イベントを通じて、「もっとしつけの相談をしたい」という意見があることを感じる。専門学校の学生達は、地元で活躍してほしい人材である。地元を知ってもらうためにも盛岡市保健所から動物愛護の現状を話してもらう予定もある。

寝たきりになった犬の介護のアルバイトの依頼が学校にあった。看護師科の3名が早朝4時半から2時間、夕方2時間、交代でアルバイトをしている。学生達も苦ではなく、現状を知った。現状求めている人がいるが、それが仕事として成り立っていない。勉強させていただいた。県内のペットの専門学校は1校のみである。地元に着してやっていかなければならないと考えている。トリマーの研修などで学校を使えないかという提

案を頂いた。学校は駅前で動物が入れる施設である。プロの方の研修会だけでなく、飼う前の方を対象として等、学校を無料でお貸しできることもある。学校が携われることが多々あるのではないかと考えている。

○多田委員：委員の皆さんから頂いた意見を事務局において検討頂くということでしょうか。（了）

5 その他

次の事項5点について事務局より情報提供をした。

（1）県営災害公営住宅でのペット飼養について【参考資料1】

○遠藤主任：本日欠席の佐藤れえ子委員から事前に意見が寄せられている事項である。佐藤委員は、沿岸地域におけるペット飼養可の住宅は足りているのか、住民の声は届いているか等を心配している。災害公営住宅において、ペット飼養を巡ってトラブルが発生しているのは事実である。県営住宅は原則ペット飼養不可であるが、災害公営住宅については住民の要望を受けて、棟を限定する等してペットの飼養を認めている。委員の皆様においては、沿岸地域での活動の際に、災害公営住宅におけるペット飼養についての情報を広く周知願いたい。沿岸保健所においても、トラブルの認知、適正飼養の助言、仮設住宅等における普及啓発等活動を実施している。

（2）食の安全安心担当業務研究発表会における動物愛護関係演題について【参考資料2】 資料提供

（3）動物愛護フェスティバル記録集【参考資料3】 資料提供

（4）犬猫の殺処分ゼロをめざす動物愛護議員連盟について

○遠藤主任：国会議員で超党派の議員連盟犬猫殺処分ゼロ議員連盟が立ち上がったことについて情報提供した。

（5）平成27年度県総合防災訓練について

○遠藤主任：来年度の県総合防災訓練への参加について、展示型ではなく、実際に動物との同行避難訓練をしていただくことで、内部で調整しているところ。7月12日に実施されると報道されている。

○白岩総括課長：訓練に参加しない人にも同行避難の重要性について周知していきたい。

○小島課長：訓練の場所は、奥州市、金ヶ崎町。江刺、金ヶ崎近郊で調整が進められている。動物を伴う訓練は、初めてで目新しいものなので、注目を浴びるだろう。御協力をお願いしたい。

○戸澤委員：昨日の地震により久慈市内では津波注意報が発令された。知人に聞いたところ、避難はしたが、犬は連れて行かなかったとのこと。沿岸地区を対象に、区長さん等に声をかけて、同行避難について広めていかなければならないと感じる。個人的には、周囲に声かけをしているが、沿岸の方たちに、広く声をかけていただきたい。

○小島課長：県としても努力していきたい。

○多田会長：被災動物の支援ネットワークをやっている。震災から4年、注意報、避難勧告に対して、どのくらいの同行避難がされたか、注目すべき点である。震災の風化とはいわないが、意識が弱くなっている。動物救護の在り方について、過去を検証し、今後の対応方針を定めていくためにも、何らかの検証をすることが必要だと考えている。

○新屋委員：総合防災訓練について、災害救助犬の関係で参加しているが、過去に盛岡市で、犬を同行して避難する練習をした記憶がある。東日本大震災より以前の話で、松園の小学校の体育館の外だったと思う。

(6) その他（各市からの話題提供）

○佐藤委員：資料を作成してきたので配布する。2月の盛岡市広報誌には、必ず地域猫関係の記事を掲載しているので参考にしてほしい。地域猫事業については、平成22年度から事業を実施しており、昨年12月末で、146頭の雌猫の避妊手術を、繁殖阻止頭数としては、876頭、44頭については、譲渡を行っている。徐々にではあるが活動が浸透している。

盛岡市保健所は、半分市役所、半分保健所という特殊な行政機関であるので、市の立場も県の立場もお互いの立場が分かる。県の担当者の会議等で地域猫のノウハウについて、研修する等情報をお知らせしているところ。地域猫は、管内市町村が、実施住民の方と取り組むものであり、県保健所は技術的助言をするもの。県の保健所から市町村担当者に助言してほしい。

○氏家代理（阿部委員の代理）：奥州市では、猫の多頭飼育の問題が多発している。市の職員には、獣医師がいない。保健所と連携して対応しているが、なかなかうまくいかない。先進事例である盛岡市の例を住民に話しても「嫌いな人がいるから」と聞

いてもらえない。どのように進めていけばいいのか、苦労しているところ。
事務方の話としては、獣医師会に所属しない獣医師との事務が多く煩雑となっている。
前例のある盛岡市に相談しながらやっていきたい。

○西野代理（岩田委員の代理）：宮古市の状況について、同行避難は、フェスティバルに参加されるような方には伝わっているが、住民全体には伝わっていない部分があると感じている。行政としての啓発活動やっているがその成果が見えてこない。

多頭飼育や野良猫に餌を与える高齢者の苦情が多い。犬猫の問題だけではなく、淋しさなど心理的な問題である。そういった研修会があるといい。罰することが解決ではなく、心理的な対応がお互いの良い生活を保つことができるのではないかと。

○漆田代理（小野寺委員の代理）：二戸市では、糞の苦情や放し飼いの相談がある。糞尿被害に対しては、広報誌などにより啓発を実施している。街中で散歩している人をみると糞取り袋を持っている人を見かけるが、一部の人はまだ対応していない。また、野良猫の糞苦情が発生している。啓発活動の手法を考えていかなければならない。広報誌を見ない人、見ても響かない人もいる。マナーアップ、底上げについて、皆様のご協力によってやっていきたい。

○小島課長：自治体の状況を委員の皆様にも感じ取っていただけたのではないかと。普及啓発はどこまでやっても完全ではない。地道に繰り返しやっていくしかない。情報共有し、ベクトルを同じくしてやっていくことが大事だと思う。